

EXTRA QUEST

QUEST POINT

広がる
冒険

PEERs Yamanashi
QUEST
Guidebook

QUEST POINT

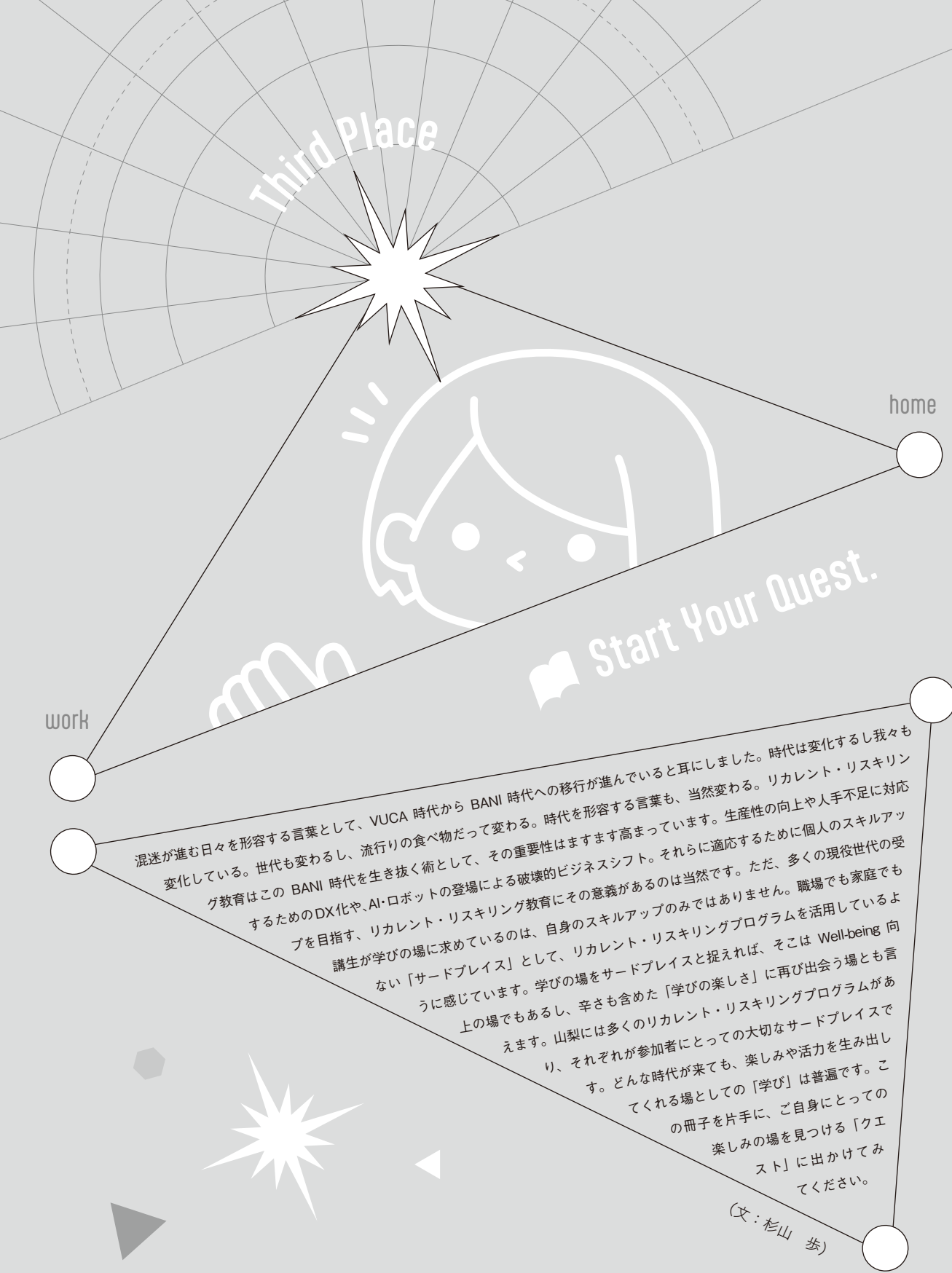
PEERs Yamanashi
QUEST Guidebook

発行日：2026年2月10日

発行：山梨県立大学

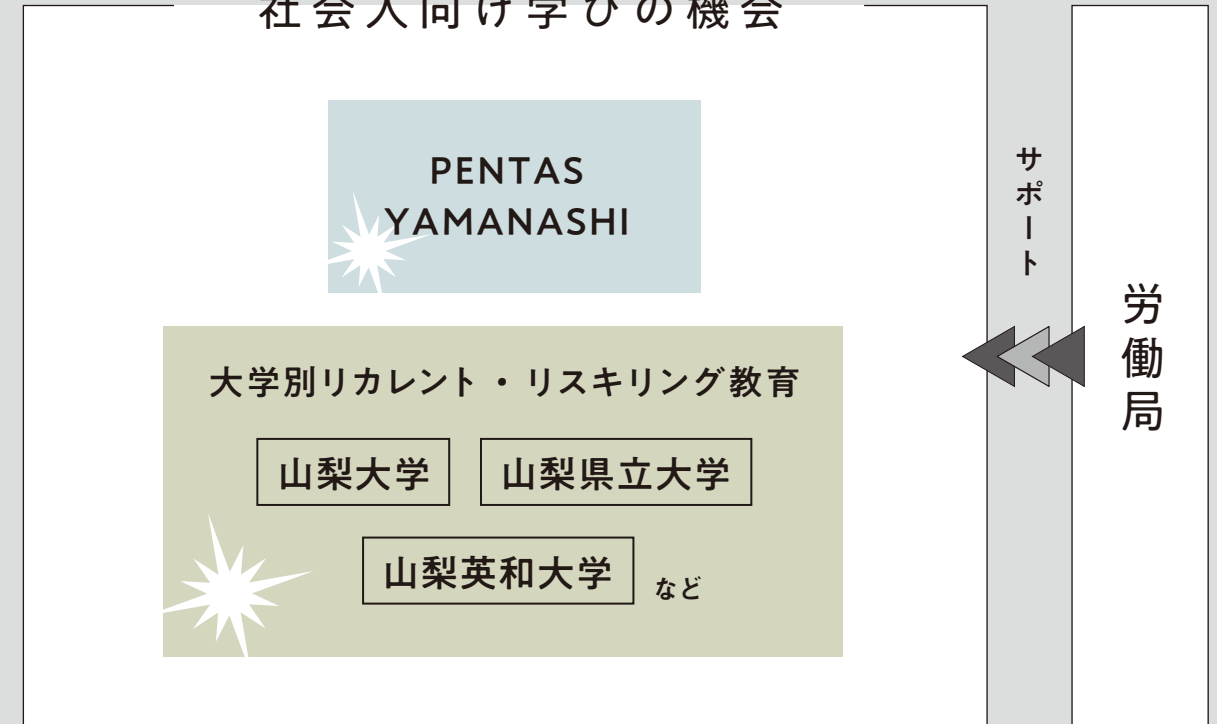
本冊子は文部科学省令和6年度補正予算「リカレント教育エコシステム構築支援事業」の支援を受け、山梨県立大学、山梨大学と山梨県内事業協働機関が共に取り組む「リカレント教育プラットフォーム「PEERs」構築事業」の一環として発行しています。

Vol.1



Our Study Fields

社会人向け学びの機会



Message

- 巻頭言 -

山梨県立大学は、激動する社会において学び続ける社会人をサポートするリカレント・リスキリング教育の推進を大学運営の重要な柱として掲げています。

これまで本学のリカレント・リスキリング教育は、地域課題解決を担う人材育成の礎として「PENTAS YAMANASHI」を大切に育ててまいりました。この強固な基盤の上に、新たに 3 つのプログラムが始動いたしました。多様なキャリア形成を支援する「やまなしデュアルキャリア・ラボ」、最先端の知見を得る「空間コンピューティング XR プロジェクト」、そして Mirai プロジェクトの実装支援プログラム「Mirai プロジェクト<Peer Quest>」です。これらにより、本学の学びは理論から社会実装までをカバーする、より力強いものへと進化を遂げました。

また、山梨県内には本学だけでなく、山梨県、山梨大学、山梨英和大学、山梨労働局といった各機関が、それぞれの強みを活かした非常に魅力的なプログラムを数多く展開しています。

今後、本学はより一層その門戸を広く社会に開放し、組織の枠を超えて皆様が交流し、共に高め合える「学びの拠点」を目指します。この冊子が、皆様の新たな挑戦を後押しする羅針盤となり、山梨の未来を切り拓く一助となることを心より願っております。

山梨県立大学 学長・理事長 早川 正幸

学びを巡る地図

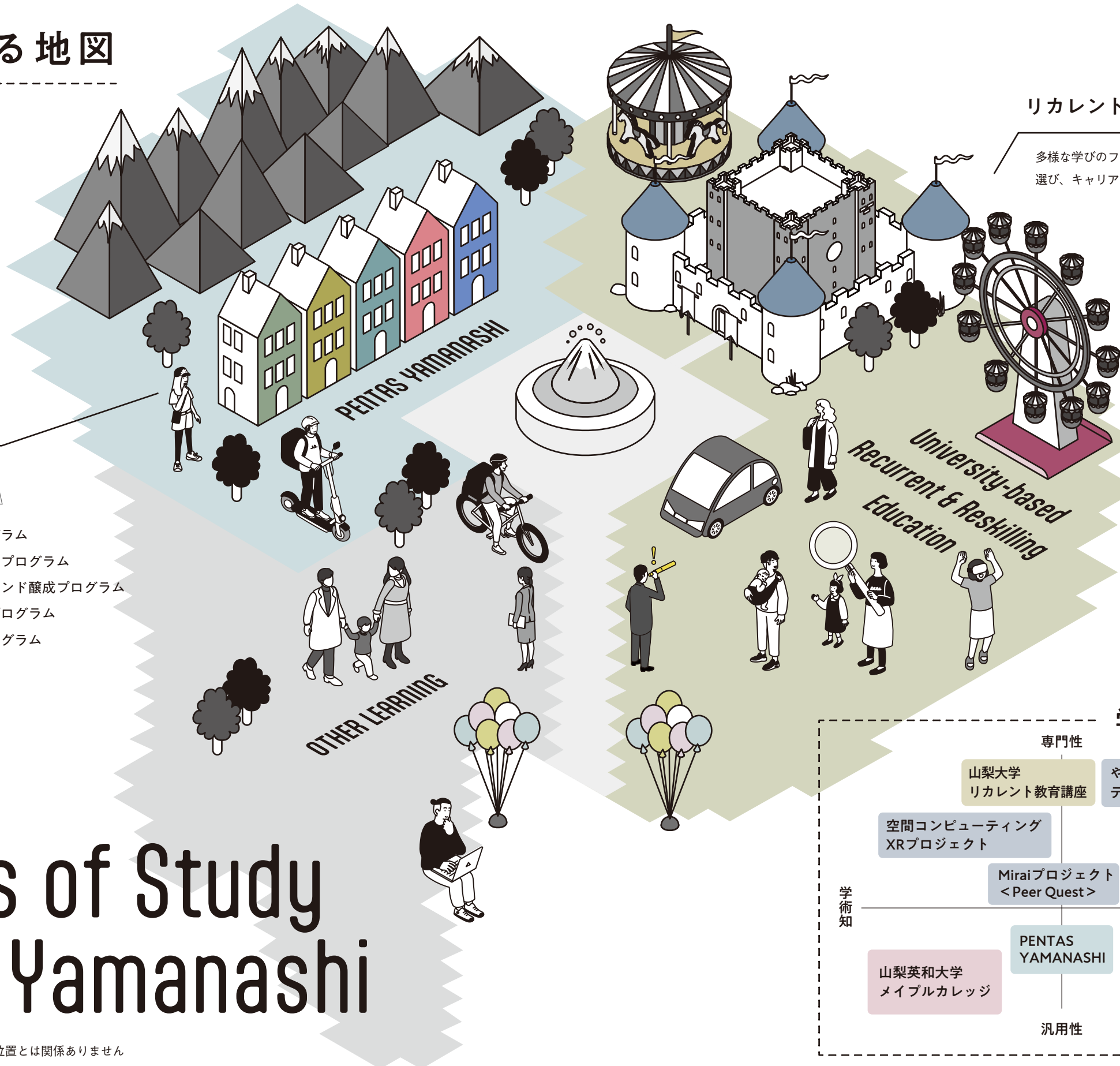
PENTAS YAMANASHI

予測不能な時代に挑む、実践知を育てる学びの場です。 **P.10**

- ・観光高度化人材育成プログラム
- ・地域づくり加速化人材育成プログラム
- ・ビジネス構想力・経営マインド醸成プログラム
- ・多文化共生対応人材育成プログラム
- ・アントレプレナー養成プログラム

Fields of Study in Yamanashi

※マップ上の配置は、実際の位置とは関係ありません



大学別 リカレント・リスキリング教育

多様な学びのフィールドから、自分に合った学びを選び、キャリアを育てる場です。

山梨大学 **P.06**

- ・リカレント教育講座
- ・水素関係講座
- ・AI 関係講座

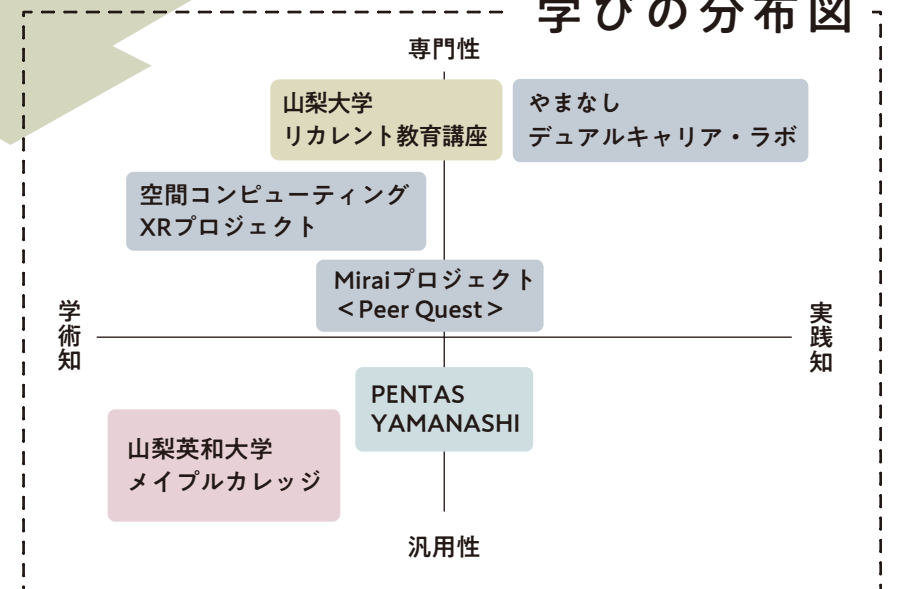
山梨県立大学 **P.08**

- ・やまなしデュアルキャリア・ラボ
- ・Mirai プロジェクト <Peer Quest>
- ・空間コンピューティングXR プロジェクト

山梨英和大学 **P.12**

- ・メイプルカレッジ

学びの分布図



※この図は県内のすべての学びが網羅されている図ではありません。

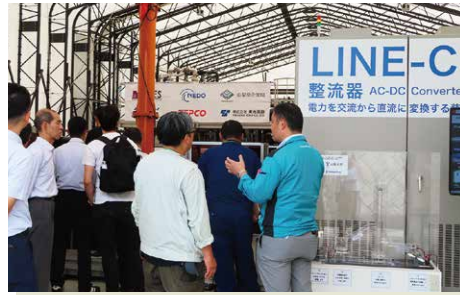
リカレント教育講座

山梨大学では、社会人が必要なタイミングで学び直し、次のステージへ進むための「リカレント教育講座」を展開しています。

水素関係講座

- ◆ 水素・燃料電池産業技術人材養成講座
- ◆ 水素・燃料電池産業技術人材養成講座事業化コース
- ◆ 水素供給インフラ周辺ビジネス人材養成講座

水素・燃料電池は、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、世界中で注目されている次世代エネルギーです。山梨大学はこの分野の研究を50年も前から進めてきた世界最高レベルの研究拠点であり、その知見と人脈を活かした「水素・燃料電池産業技術人材養成講座」を2016年から県の受託事業として開講しています。



この「水素・燃料電池産業技術」に特化した「人材養成講座」は、大学の研究の一部から企業の最先端技術までの幅広い分野に関して、講義だけでなく実習、施設見学で構成されています。



技術職はもちろんのこと、営業職や新人研修としても広くご利用いただける内容です。

山梨県としてはこの分野の基幹産業化を強く推進しており、山梨パッケージとして世界へと打ち出す基盤を構築しようとR6年度より技術提案力向上を目的とした「事業化コース」を、R7年度より水素の供給インフラに特化した「水素供給インフラ周辺ビジネス人材養成講座」を追加開講しています。

受講資格

水素・燃料電池関連産業分野に関わる、または参入を目指す県内企業・団体に勤務し、所属長の推薦を受けて継続的に受講できる方。

※一部抜粋、詳しい受講資格は各講座の案内をご覧ください。



Quest Log 受講者の軌跡 [受講者アンケートより]

序盤では、昨今の地球沸騰化や温室効果ガスが及ぼす地球環境の状況について学び、現在の水素を取り巻く世界と日本の状況や技術、水素を利用していく上での運搬や貯蔵や、電気・熱源に変換していく上での課題が総合的に理解出来て大変勉強になりました。

山梨県がこれまで水素に対しての取組みが突出していることもあり、米倉山での施設や山梨大学での研究開発を含め豊富な人材と水素に関する網羅的な研究成果を積み重ねてきている蓄積がある。その蓄積と人材をいかにこの講座にそそえており、恐らく日本一ぐらいのレベルの講座になっていると感じました。

主催：山梨大学／山梨県産業政策部成長産業推進課

AI関係講座

- ◆ AI・データ利活用スペシャリスト養成講座
- ◆ 課題解決プログラム
生成AIとデータサイエンスを活用した課題解決ワークショップ

山梨大学では、デジタル技術の基礎的素養を持つ県内技術者を対象にAI・データ利活用スペシャリスト養成講座を開講し、AI・データ利活用など先端デジタル技術を体系的に学べる機会を提供しています。これにより、県内自治体や企業でDXを推進できる高度人材の育成と、技術者同士のスキル向上を図ります。さらに、県内企業と連携して実践的な課題解決プログラムを実施し、現場における課題解決力の強化も進めています。

◆ AI・データ利活用スペシャリスト養成講座

本講座は、AI・データ活用スキルの向上を目的とした実践的セミナーで、YSA参加企業がAI活用やデータ分析の相談に対応できる人材育成を目指し、事例紹介や演習を交えながら、基礎から応用まで体系的に学べる内容となっています。初めてAI・データ活用に取り組む方はもちろん、昨年度の受講者の復習やスキルアップにも適しています。

Pythonによるデータ処理、エクセル操作、可視化、分析手法に加え、APIを活用した外部情報の取得や実データを用いた分析の流れを習得します。また、アンケートデータなど多次元データの可視化や解釈方法を学び、実務に活かせる意思決定力を養います。さらに、生成AIの基本概念や大規模言語モデル(GPTなど)の仕組み、テキスト生成・画像生成AIを用いた実践演習を通じて、最新のAI技術を業務で活用するための基礎的なスキルを身につけます。

対象

Pythonなどのプログラミング基礎知識を有する方

◆ 課題解決プログラム

生成AIとデータサイエンスを活用した課題解決ワークショップ

このワークショップでは、企業等が現実に抱えている業務課題について、生成AIとデータサイエンスを活用したアプローチにより課題解決アプリ・システム案を作成します。

ローカル環境で使用可能なワークフロー自動化ツール「n8n」やその他AIを使用します。

参加条件

山梨県内在住のITエンジニア及び学生
Pythonのコーディング技術を有すること



Quest Log 受講者の軌跡 [受講者アンケートより]

養成講座

ハンズオンで楽しく学ぶことができた。／とても面白い内容でした。AIを活用するきっかけになります。／AIを業務のなかで活用するための基礎を学ぶことができました。

AIハッカソン ※R7年度は課題解決プログラムに変更

1日目から最終日までとても楽しく活動することができました。かなり難しく感じたこともありましたが、チームワークで乗り切ることができたと感じています。／全体として素晴らしい内容でたくさんの学びを得ることができました。幅広い年齢層と多様なバックグラウンドの参加者との共同作業はとても楽しく、有意義なものでした。

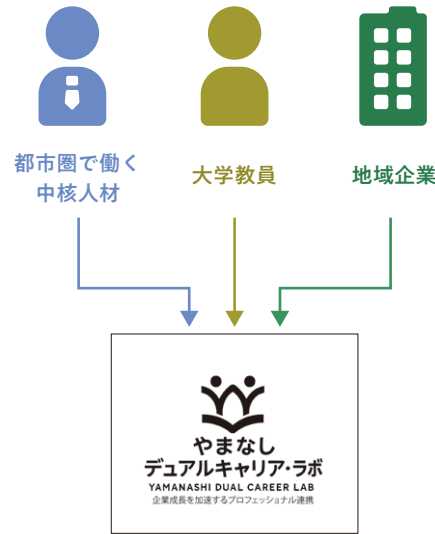
主催：山梨県 (DX課) 協力：山梨大学、(一社) 山梨県情報通信業協会



山梨県立大学では、企業・地域・人材をつなぐリカレント・リスキリング教育を展開しています。デュアルキャリア・ラボ、Peer Quest、XR プロジェクト、そして「PENTAS YAMANASHI」を通じて、実践的な学びと地域課題解決を両立する人材育成に取り組んでいます。

やまなしデュアルキャリア・ラボ

都市圏で活躍する中核人材に「山梨県立大学研究員(産学連携)」を委嘱し、週4日は山梨県の未来をリードする企業に入って経営課題について整理・分析し、週1日は山梨県立大学で専門知識を学びながら解決に向けた取組を実践するプロジェクトです。



学びの構造

週4日：企業

実践・課題解決…経営課題の整理・解決サポート

週1日：大学

学び・思考の整理…
大学教員・外部講師による
研究員向けゼミ・講座実施

研究期間終了時に成果報告会を行い、参画企業の課題解決への取り組みを発表します。

Quest Log 受講者の軌跡

内田 智之 様



私は企業訪問と Web 会議を計画的に組み合わせることで、首都圏在住・現職在籍のまま、このプロジェクトへ参加しています。本ラボは、高い専門性を持つ同期との切磋琢磨や各自の研究テーマに応じたオーダーメイド型講義、事務局の手厚い支援など、自身のキャリアを見つめ直し再設計できる環境が整っています。自身の知識・経験とこの環境を活かし、地域企業に活用可能なマネジメント・変革技術を探求し、地方創生や地域活性化に貢献したいと考えています。



Miraiプロジェクト <Peer Quest>

スペシャリストの伴走支援により「Mirai プロジェクト」を強化・深堀する試みです。Mirai プロジェクト参画企業の課題に沿った講座と実践を提供し、その学びがプロジェクトのアウトプットをアップデートできる取り組みに昇華させていきます。

※本講座は Mirai プロジェクト実施団体向けの教育です



Quest Log 受講者の軌跡

横森 早紀 様

(株式会社オズプリンティング)



本プロジェクトでは新規事業という“まだ形のない挑戦”を、伴走していただくことで、考えを深め、前に進めています。答えが用意されているわけではありませんが、問いの立て方や考え方が少しずつアップデートされていると感じます。この先どう形になるかはこれからですが、普段の制作業務とはまた違う目線を養うことができ、学生との Mirai プロジェクトの側で自ら学びを感じることができています。

空間コンピューティングXRプロジェクト

山梨県立大学と信州大学が連携し実施する XR プロジェクトです。受講者は XR (空間コンピューティング) を体験し、プログラミングを学びながら、地域企業の次世代リーダーとして学生と共に観光活性化などの社会課題に取り組みます。XR を活用した解決策を創り出し、自社での事業活用について考える深める機会を提供します。



Quest Reward

得られるもの

次世代リーダーの成長

企画力と行動力が、
実践を通じて身につく

自社事業への応用

学びを起点に、
事業提案へつなげられる

ネットワークの拡張

多様な発想と出会い、
可能性が広がる

主催：信州大学 リカレント学習プログラム推進本部/山梨県立大学 リカレント教育推進室 運営：株式会社 STYL

PENTAS YAMANASHI

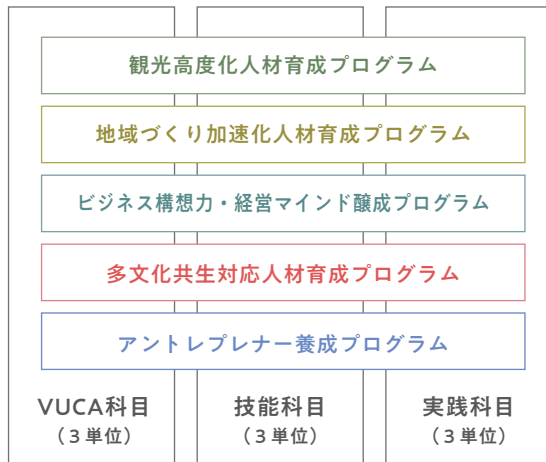


学生と社会人の垣根を超えた実践知教育プログラム

VUCA 時代と呼ばれる、既存の価値観やビジネスモデルが通用しない予測不可能な時代をクリエイティブに生き抜くため、多彩な講師陣と多様な受講者による学び合いを通して、しなやかな「実践知」を育みます。



プログラムの構造



プログラム修了証



各プログラムの VUCA 科目、技能科目、実践科目より所定の単位数を取得した者に修了証が授与されます。

観光高度化人材育成プログラム

地域資源の活用方法を学び観光の高度化を図ることができる人材を育成するとともに、新たな地域資源を対象に教育プログラム化し、実務家や専門家から本県の自然・歴史文化財の活用方法を学んでいきます。



やまなしワイン入門講座

講義名 (一部抜粋) 地域資源の保全と活用 / やまなしワイン入門講座 / 観光実践マネジメント講座 / ネイチャーガイド演習 1 など

地域づくり加速化人材育成プログラム

地域づくりの中心を担い、社会変革力の醸成を担うことができる人材の育成を目的に、更なる地域住民との交流・対話の場を設け、実践的な授業を展開していきます。



ワークショップデザイン

講義名 (一部抜粋) ローカルデザイン実践演習 / 政策づくりの技法 / ワorkshopデザイン / クラウドファンディング実践演習 など

ビジネス構想力・経営マインド醸成プログラム

県の基幹産業である製造業等において求められる人材を育成するため、実務家教員を最大限活用し、新規でビジネスを構想する力を養うとともに、経営マインドの醸成を図ります。



企業がチャレンジする経営革新

講義名 (一部抜粋) 企業がチャレンジする経営革新 / ブランディングの基礎と実践 / 世界の経営と技術の最前線を学ぶ / 事業計画づくりワークショップ など

多文化共生対応人材育成プログラム

医療・福祉・教育の現場の国際化・多文化化の課題を理解し、解決するための方策を見出すことのできる人材を育成します。



多文化共生の現場を歩く

講義名 (一部抜粋) 多文化共生地域課題 1,2 / 多文化社会とことば / 芸術活動とおとした多様性協働プロジェクト / 共生社会を創る (～教育の場から～, ～保健医療福祉の場から～) など

アントレプレナー養成プログラム

自らの課題をビジネスの手法で解決する能力を養い、「起業家精神」を有する人材を養成するとともに、学生と社会人が相互に学び合い、新たな視点で事業を構想することのできる場を提供していきます。



ビジネス共創実践

講義名 (一部抜粋) アントレプレナーシップとスキル / アイデア共創実践 / グローバルビジネススキル / ビジネス共創実践

Quest Log 受講者の軌跡

高橋 レナト 様 (公務員)

私が就活をしていた頃、企業と採用の話はしても、就活そのものについて意見を交わすことはほとんどなかったので、今回のイベントで学生と企業それぞれの就活観を聞くことができ、とても面白かったです。企業にとって学生の求めるものは見えにくいので、学生の生の声はとても参考になるのだらうと思います。個人的にこういったイベントのように企業と学生が対等に話す場が増えていけば良いと思います！

お問合せ先は P.13 へ

参加大学：山梨県立大学、山梨大学、山梨英和大学

メイプルカレッジ



地域と社会に開かれた生涯学習

山梨英和大学『メイプルカレッジ』は、研究・教育の伝統を基盤に20年以上にわたって展開されてきた、県内随一の生涯学習プログラムです。ぜひ、皆さまの日々の生活を豊かにするために、あるいは新しい世界へと足を踏み出す入口として、山梨英和大学『メイプルカレッジ』をご活用ください。

第1群 文学・文化・芸術講座



『縄文から現代へ～日本文化の源流を探る』

第2群 人間・心理・社会講座



『モチベーションの心理学』

第3群 環境・自然・健康講座



『国蝶オムラサキが棲む山梨の里山環境』

第4群 キャリア・資格・特技講座



『Switched-on Ireland - Tune into English 前期』

カリキュラムの構成と過去の講座

Quest Log 受講者の軌跡

笠井 友紀 様
(株式会社マニュアルズ 広報)



これまで興味のある分野を中心に受講してきました。講座を通して知識を深めたり、新しいことに触れたりする時間はとても充実しており、大人になってから改めて学ぶ楽しさを実感しています。友人と一緒に参加できることや、共通の趣味をもつ方々とお話できるのも嬉しく、何度も受講されている方が多いのも、皆さんが同じように学びを楽しんでいるからだと感じています。

お問合せ先は P.13 へ

あなたに合った学びや支援につながる各窓口を紹介します！

山梨大学 P.06-07

水素関係講座

国立大学法人山梨大学 研究推進・社会連携機構
水素・燃料電池技術支援室
〒400-0021 山梨県甲府市宮前町 6-43
E-mail : hfc-info@yamanashi.ac.jp
TEL&FAX : 055-254-7098



水素・燃料電池産業技術
人材養成講座サイト

AI 関係講座

(一社) 山梨県情報通信業協会
TEL : 055-243-2046 E-mail : staff@ysa.or.jp

山梨英和大学 P.12



地域と社会に開かれた生涯学習
メイプルカレッジ

〒400-8555 山梨県甲府市横根町 888
E-mail : extension@yamanashi-eiwa.ac.jp
TEL : 055-223-6034 / FAX : 055-223-6025



給付金・融資関係 P.14-15

お問い合わせ先：居住所を管轄するハローワーク

教育訓練給付金・教育訓練休暇給付金
……………ハローワークの雇用保険給付部門

リ・スキリング等教育訓練支援融資
……………ハローワークの職業訓練部門



山梨県内のハローワーク一覧

山梨県立大学 P.08-11

やまなしデュアルキャリア・ラボ
Miraiプロジェクト<Peer Quest>
空間コンピューティングXRプロジェクト

山梨県立大学リカレント教育推進室
E-mail : peers@yamanashi-ken.ac.jp



やまなし
デュアルキャリア・ラボ

PENTAS YAMANASHI

山梨県立大学 地域人材養成センター
TEL : 055-225-5412
E-mail : shakairenkei@yamanashi-ken.ac.jp



PENTAS YAMANASHI

気になる学びから
探索してみてください！

QUEST SUPPORT

挑戦を支える制度 給付金／融資情報

新しい学びや挑戦には、環境と支援が必要です。
国（厚生労働省）が提供する給付金・融資制度は、学び直しや事業への一歩を後押しするための「サポート」です。



学び直しや挑戦を支える
3つの制度

概要

給付金（返済不要）

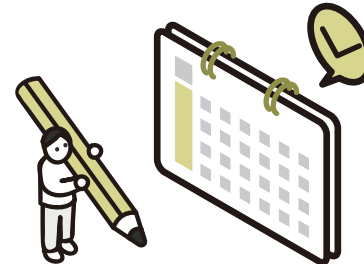
教育訓練給付金



働きながら学び直す人等を対象に、指定された教育訓練講座の受講費用の一部を支援する制度です。スキルアップや資格取得を後押しします。

給付金（返済不要）

教育訓練休暇給付金



学びに専念するために取得した教育訓練休暇中の生活を支援する制度です。一定期間、安心して学びに集中できます。

融資（返済が必要）

リ・スキリング等 教育訓練支援融資



スキルアップや学び直しに必要な教育訓練費用や生活費を融資で支援する制度です。

主な対象

雇用保険の被保険者または被保険者だった方
(原則、離職してから一年以内)

雇用保険の一般被保険者（在職中の方）

雇用保険の給付を受けられない求職者等
※融資には要件があります。詳細はハローワークでご確認ください。

どんな人向け？

仕事を続けながらスキルアップしたい人

一定期間、学びに集中したい人

まとまった学習費用が必要な人

使える内容

指定された教育訓練講座の受講費

教育訓練のために取得した休暇期間

教育訓練費用・生活費など

留意点

対象となる講座が決まっており、受講前に対象講座の確認が必要です。給付は原則、講座修了後（種類によっては受講中）に行われます。



詳細

教育訓練のために休暇を取得できることが前提となります。利用にあたっては、勤務先での制度整備や事前確認が必要です。



詳細

融資制度のため、返済が必要です。利用できるかどうかは、ハローワークでの確認や審査により判断されます。



詳細

特徴

費用負担を軽くして学び直しを後押し！

生活面の不安を減らし挑戦しやすく！

費用の足りない部分を補える！

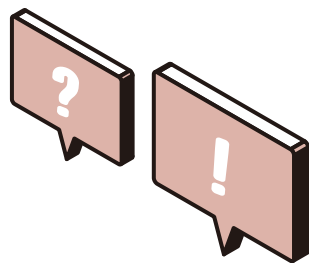


これらの制度は、学び直しに伴う「お金の不安」や「生活の不安」を軽くするための国の支援策です。自分の学び方や状況に合わせて、給付金と融資を使い分けることができます。

QUEST INTERVIEW

社会人の「学び」を考える

採用や育成の現場で、人と組織を見つけてきた株式会社リンクアンドモチベーションの榎原洋平さん。著書も持つ実践者に、社会人の「学び」についてお話を伺いました。



このままでいいのかな
そう思った瞬間から、学びは始まっている。



株式会社リンクアンドモチベーション
特任執行役員

榎原 洋平 さん

2003年、リンクアンドモチベーションに入社。以来、100社以上の採用・育成を支援。複数の大学で非常勤講師を務め、産官学連携による教育を実践する。2022年、一般社団法人エッジソン・マネジメント協会を立ち上げ、年間6000人以上の若者に教育機会を提供。近著に『エッジソン・マネジメント2.0 次代を担う若者を産官学連携で育み、活かす方法』(PHP 研究所)



「学びって、自分でするものなんですよ。他律的というか、強制的な学びだと、どこまでいっても続かないと思っています」

インタビューの冒頭で語られたこの言葉は、その後の話の中でも、形を変えながら繰り返されていきました。「自ら学びたいから学ぶ、というマインドを持たない限り、学びは継続しないんです」

社会人になると、学びは誰かに用意されるものではなくなります。

時間にも余裕にも限りがある中で、「学ぶかどうか」「何を学ぶか」を決めるのは、自分自身だといいます。

大学教育と企業採用支援をして見えてきた、若者がつまづく場所

榎原さんは、企業の採用支援と大学教育の両方に関わってきた立場から、次のような違和感を語ります。

「企業がどんな人を求めているのかということと、大学が『こういう人が世の中のために必要だ』と言っていることに、すごく乖離があるんです。しかも、その二者がほとんどコミュニケーションをしていない」

学歴や資格が重視されると言われる一方で、本当にそれが現場から求められているとは限りません。就職活動そのものも、何が正解なのか見えづらくなっています。

「大学時代、いろいろ頑張っていた学生が、就活ですごく

つまらなくなっていくんです。大志を持っていた学生が、それを失ってごく平凡な社会人になっていく。そのプロセスを、何度も見てきました」

この乖離の問題に対応するためには、高校・大学・社会が、それぞれ分断されたままではなく、きちんと繋がっていくことが大切です。山梨県は、その点で全国における先駆事例だといえます。

社会人になって伸びる人、止まってしまふ人の差

では、社会人になってからも学び続け、成長していく人は何が違うのでしょうか。この問いに対して、榎原さんの答えはとてもシンプルでした。

「特別な能力があるかどうかではないです。自分で目標を立てて、チャレンジして、振り返り、その学びを次に活かす。それをやっているかどうかだけだと思います」
「教えてもらう前提でいると、どうしても成長は止まってしまいます。」

「会社に入ったら全部教えてもらえる、というマインドだと、正直、育たないです。今は、言ってくれば教えるけど、こちらから学びを押し付けるのは難しい時代ですよ」
だからこそ、若者が自ら「手を挙げる」主体性が重要になると話します。

「今の環境は、若者が手を挙げれば、実は結構いろんなことができる余地があるんです。でも、その経験をしてきていないから、失敗を恐れて手を挙げられないことが多い」

社会人の学びで重要なのは、単に知識を増やすことではありません。

「自分で学ぶ責任を引き受ける」という主体性のマインドを、どれだけ早く持てるか。その差は、社会人になってから最初の3年で大きく開いていきます。

会社の中だけで人を育てきれなくなっている現実

育成の話になると、「会社がどう育てるか」という議論になりがちです。しかし榎原さんは、そこにも限界を感じていると言います。

「正直、今の管理職は、実務も見て、評価もして、育成もして、全部を一人でやるのは、もう難しいと思っています」
業務支援、内省支援、精神支援。この三つを一人のマネージャーがすべて担うのは、構造的に厳しい状況です。

「だから、人材育成の機能自体を、マネージャーが一人で完結させない方がいいと思っています」

そこで最近注目されているのが、社外との関係です。

「社外の人や、立場の違う人からフィードバックをもらう。この「斜めの視点」が、気づきの幅を一気に広げてくれるんです」

育成において、会社の外や地域社会と交流していく必要性が語られました。

「学ばせると辞める」という不安について

社会人の学びの話をする、必ず出てくるのがこの「学びの機会を与えたら、辞めてしまうのではないか」という不安。この点について、榎原さんは次のように語ります。

「学んで視野が広がり、自分の方向性がアップデートされること自体は、健全な変化です。ただ、その変化に合わせて会社が挑戦の機会を提供できなければ、転職を選ぶこともあるでしょう。会社は、社員の変化や成長に応じて、適切に機会を提供していくべきだと思います」

社員に学びの機会を与えない企業よりも、学びを応援し、変化に合わせて適切な機会を提供できる企業のほうが、結果的に社員から選ばれ続けます。学びは「今の環境を否定するためのもの」ではなく、「今の環境をどう活かし、成長していくか」を考えるためのものなのです。

大学を起点とした、地域に根づく学びの環境

最後に、地域での取り組みについて話を聞きました。

「全国でさまざまな産学連携のモデルを見てきましたが、正直、山梨はすごいと思っています」

その理由は、派手な制度があるからではありません。

「山梨は、全国の中でも高校・大学・社会の連携が進んでいます。社会人が若者の教育に関わる文化が根づいているのは、本当に素晴らしいことです。しかも、大学がリーダーシップを持ってこのモデルを推進している点も、全国的に見て珍しいと思います」

社会人が高校生や大学生の教育に関わることで、新たな気づきを得て、自らも成長していく。そうした循環が実際に機能していることに、大きな意味があるといいます。

「社会人は、会社の中だけにいると、新しいつながりがどんどん減っていくんですよ。だからこそ、会社の外に出て、学生や社外の人と交流し、自分を相対化できる場があることが、とても大事だと思っています」

地域の中に、つながり、共に学べる場があること。それは、社会人の学びを一過性で終わらせず、継続的なものにしていくための重要な条件です。

榎原さんが語っていたのは、特別な制度の必要性ではありません。大学がハブとなり、学生と社会人が集い、学び合える環境が近くに存在していること。その環境や文化そのものの価値でした。

山梨には、社会人が学び続ける土壌が、確かに育ちつつあります。

DATA QUEST

LEARNING & LIFE

数字で見る、
山梨と学びの可能性

この冊子で山梨の社会人の学びの場が
たくさんあるのはわかったけど…
山梨で学ぶと、何が変わるのかなあ？

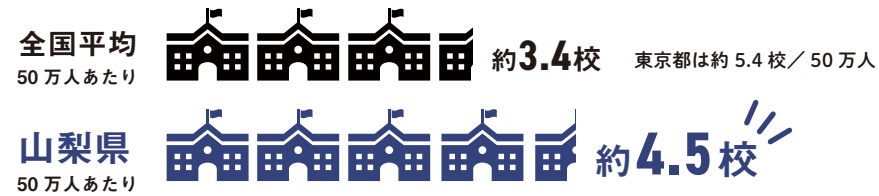
ここでは
さまざまなデータをヒントに「**学びの可能性**」を探っていきます！



山梨は、学びと距離が近い！

出典：文科省 学校基本調査(令和6年度)
／総務省 人口推計(2024年10月1日現在・日本人人口)

人口 50 万人あたりの大学数で比べると、
山梨県は**全国平均を上回り、**学びの拠点が身近にある地域なんです！



学びたいと思ったとき、手が届く距離に大学があるんですね！

しかし！ 世界18カ国・地域(調査都市)と
比較しても日本は

約52.6%

半分以上の人が、成長のために
“何も行ってない”という状況で…

他国比較	インド 3.2%	韓国 20.6%
	オーストラリア 28.6%	
	日本は18カ国・地域中で 最も高い割合	

出典：パーソル総合研究所「グローバル就業実態・成長意識調査(2022年)」
社外の学習と社外の学習・自己啓発の活動状況
「とくに何も行ってない」の回答を比較

うーん

学ぶ環境はあるのに
環境を生かしきれていない…



でも…

学ぶと どう変わる？

年収と幸福度の ダブルアップ

学びは「稼ぐ力」と「幸せ」を
同時に引き上げる
心強い投資

さらに習慣化で 自己効力感UP!

学びを習慣化できると
自信もアップ!

社会人の学びの場 =
**サードプレイスで
新しい自分に出会う!**

サードプレイスを
1つでも持っている人は
生活満足度が高い!

出典：内閣府 満足度・生活の質に関する調査報告書 2025(2025年9月) / 内閣府 リカレント教育による人的資本投資に関する分析(2021年)
パーソル総合研究所「リスクリテラシーとアンラーニングに関する定量調査」(2022年)

スポーツするなら、 学びも!

生活の中で、
約**3人**に**2人**はジムに行くように、
約**4人**に**1人**はもう
学びをはじめてる。

ジム感覚でカジュアルに
学びも始められそうかも？

出典：令和3年社会生活基本調査
生活時間及び生活行動に関する結果

学びにチャレンジするのが
楽しみになってきました!

やってみよう! 学び探してみます!



Let's Start Your Quest!

やまなしキャリアアップ・ユニバーシティ (CUU)



やまなしキャリアアップ・ユニバーシティは、成長を求めるあなたへの革新的な学びの場です。山梨にゆかりある最高の講師陣が未来を切り拓くための実践的なスキルを指導。経験豊かなコーディネーターがキャリアプランの検討や学んだスキルの実践を支援し、企業には持続可能な成長を促す人材育成の提案をいたします。

現場とキャリアをつなぐ、実践重視のスキルアップ

働き手は「何を学ばよいか分からない」、企業は「育成方針を描く余裕がない」。こうした働き手と企業、双方の課題に向き合います。

単なる研修の提供ではなく、現業や将来像を踏まえた学習計画の設計、研修後の実務での実践・定着までをコーディネーターが伴走。個人のスキルアップを起点に、企業の生産性向上や評価・賃金向上へとつながる好循環を生み出します。

KEY POINT | CUU の特徴

01

学び直しを一か所で把握



県内の講座やキャリア支援情報を集約し、迷わず学びを選べます。

02

実践まで見据えた講座設計



研修後の「仕事で使う」ことを前提にした本格的な学び。

03

一人ひとりに合わせた学習計画

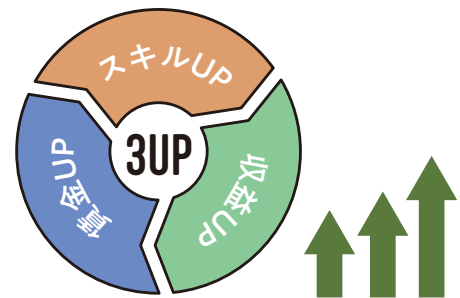


キャリアの方向性に寄り添い、必要なスキルを整理・提案します。

豊かさ共創スリーアップ実践企業認証制度

山梨県では、企業の「スキルアップ・収益アップ・賃金アップ」を推進するスリーアップ実践企業認証制度を実施しています。この制度は、企業の成長と働く人のキャリア形成を支援する仕組みです。

認証を受けた事業者は補助金・融資・支援などさまざまな特典を受けられます。



CUU オリジナル講座一覧 R7 年度実績

想定	経営、DX、コミュニケーションの汎用的な講座から、業種特化の講座までラインナップ。	
経営層 社長／役員	経営視点で組織を動かす 上級管理職トレーニング講座	ビジネスのための デザイン講座
管理職層 部長／課長	次の経営を担う人材を育てる！ 戦略思考×実践力 養成講座	部下を育てる コミュニケーション実践講座
	チーム(組織)を前向きに導く！ ネクストリーダー養成講座	女性管理者向け キャリアデザイン講座
	業務改善の基本から、 ツール活用・実践まで！ ゼロから学ぶ実践講座	DX 認定取得支援 講座
リーダー層 主任・主査	IoTを活用した生産設備効率化を 目指す実践講座	デジタルツールハンズオン講座
一般社員		観光経営人材育成講座
		『若手が職場を変える』 チームビルディング 1day 研修
		ChatGPT"アドバンス講座"
		ChatGPT実践講座
		DX入門講座

現場で「すぐ実践出来る」
生きたコミュニケーション講座

広報・マーケティングの情報発信に
必要なスキルを学ぶ実践講座

講座の様子



受講者同志の議論



経営者とのディスカッション



振り返り共有会

この他、外部講座も充実中！

受講者たちからの感想

◆ DX実践講座

これまでSNS発信は手探りででしたが、LINEやInstagramの活用を本格的に検討し、若手社員が主体となった情報発信の仕組みづくりが進んでいます。受講をきっかけにDX推進体制にも弾みをつけ、講座で学んだ業務フローの見直しにより新たなデジタルツール導入にも前向きに取り組めるようになりました。

◆ 経営マネジメント講座

「ビジネスモデルとは何か」という基本から教えていただき、ありがたかったです。見いだした自社の価値を徹底的に磨いていくことが大切だ、というお話にハッとさせられました。著名な講師の方から直々に経営の知識やノウハウをシャワーのように浴びることができます。

◆ コミュニケーション講座

参加者同士のグループワークが多く、他社の方々の意見を聞いたり意見交換をしたりする中で、色々発見がありました。講師も「人の意見を否定せず、自分の意見を伝えること」を大切にしていたので、職場でも活かせると思いました。

◆ IoT講座

受講前後で最も大きな変化は、技術的な引き出しが増えたことです。現場に近い内容を学んだため、自身に落とし込みやすく身につけやすく、現場から相談が来た時に「できますよ」「こういうこともできます」と答えられるようになり、「これ見たいんだけど」と言われた時の対応力が向上しました。

◆ コミュニケーション講座

コミュニケーション講座を基礎から応用まで受講しましたが、仕事だけでなくプライベートでもすぐに活かせる内容が満載でした。挨拶の大切さは小さい頃から何度も聞いてきましたが、改めて「基本がしっかりしていない会社は信用を失う」と教えられ、自分の挨拶を見直すきっかけになりました。

◆ ものづくり講座

他の受講者の事例発表もとても興味深かったです。自社に置き換えたらどういう課題が出るか、システム導入にどういう障害があるかといったことを考えるきっかけになりました。また、普段だったら絶対知り合うことができない他業種の方とも知り合え、お互いに工場見学を行い、興味があるが実践できていない分野を双方に見学しあうことができ、とても有益な情報交換が行えました。



気になる社会人向け学びのQ&A

気になること聞いてみました！

Q&A

Q 何から学べばいいかわからない場合はどうすればいいですか？

迷ってしまう、何から学べばわからない、そんな場合は、まずはこちらにお問合せください。

山梨県立大学リカレント教育推進室

E-mail : peers@yamanashi-ken.ac.jp

Q 社会人の学びについてに興味がありますが、仕事が忙しくて時間を工面できるか不安です

どのプログラムも、受講生のことを放っておきません。皆さんのことを支えてくれますので、ご安心して学びに飛び込んでみてください。例えると、トレーナー付きのパーソナルジムのような感じです。(杉山)



さあ、冒険へ！
ここから学びが始まります